

ファンド
レポート

～成長企業の再評価はこれから③～

- 株式市況は一時的な調整局面を経ながらも、基本的には堅調な展開を想定しています。引き続き成長戦略の明確な企業へ注目し、パフォーマンスの向上に努める所存です。
- 当ファンドでは、前回のレポートでご紹介した自動車業界やヘルスケア業界のほか、世界的に競争力が高く、新興国における現地需要増や円高是正などの恩恵も享受できる機械業界および、新薬開発や大手製薬企業と提携等が期待できる創薬バイオベンチャー企業にも、中長期的な観点から注目しています。

株式市況の今後の見通し

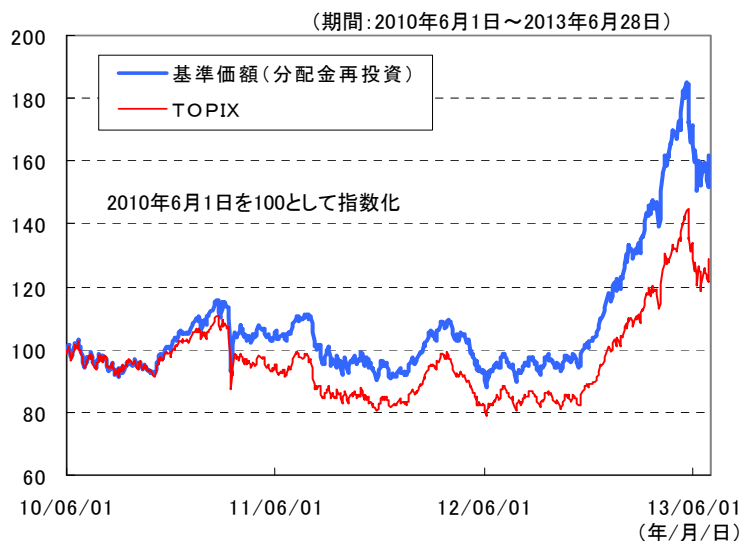
当ファンドの参考指数である東証株価指数(TOPIX)は、足下の為替市況や米国の量的緩和策の早期の縮小観測などを背景に調整する局面となっており、当面は米国の経済指標等の展開次第で調整する局面もあると考えます。

しかしながら日本株については、一時的な調整局面を経ながらも、前年度比で円安メリットを享受する外需関連企業の業績拡大見通し、今夏の参議院選挙を経て本格化すると思われる政府の成長戦略の実行などを背景に、基本的には堅調な展開に戻ると想定しています。

このような想定のもと、当ファンドは安倍政権の成長戦略のひとつである「戦略市場創造プラン(健康、エネルギー、次世代インフラ、農林水産業など地域資源の4つを重点分野とする)」に関連する、サービス力や技術力で高い競争力を持つ企業に着目し、更なるパフォーマンスの向上に努める所存です。

※TOPIXは、当ファンドのベンチマークではありませんが、市況推移の参考として掲載しています。

《当ファンドの基準価額とTOPIXの推移》



・基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率1.6275%(税抜1.55%))控除後の値です。また、基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

(出所)三菱UFJ投信作成

《投資コンセプトと組入銘柄例》

投資コンセプト(銘柄選定の主な観点)	銘柄名(銘柄コード)	注目点
成長の基盤 (商品の独自性・将来性など)	テラド(7236)	環境対応や燃費向上に貢献する「EGRクーラ」に独自性と将来性を見出せる。今後、タイや北米での「EGRクーラ」搭載台数増が見込める。
スマートな成長 (効率を損なわない成長など)	シップヘルスケア ホールディングス(3360)	医療機関の新設・移転などのニーズに応え、医療設備・医療機器・情報ネットワークの整備・調達など病院運営に必要なあらゆるサービスをワンストップで提供。
成長のファクター (ブランド力など)	トヨタ自動車(7203)	トヨタとレクサスの2ブランドと日野・ダイハツが独自ブランドを展開。2013年3月末までにハイブリッド車のグローバル累計販売台数が500万台達成。

・上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。また、ファンドが実際に投資する銘柄とは異なる場合があります。

■ 東証株価指数(TOPIX)

東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

- ・上記は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。
- ・本見通しないし分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動・運用成果等を示唆・保証するものではありません。計測期間が異なる場合は、結果も異なる点にご注意ください。

※後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

当ファンドが注目する業界 ～ 機械業界

堅調な経済成長が見込める新興国の需要増加を享受でき、グローバルでも競争力の高い機械業界に注目しています。

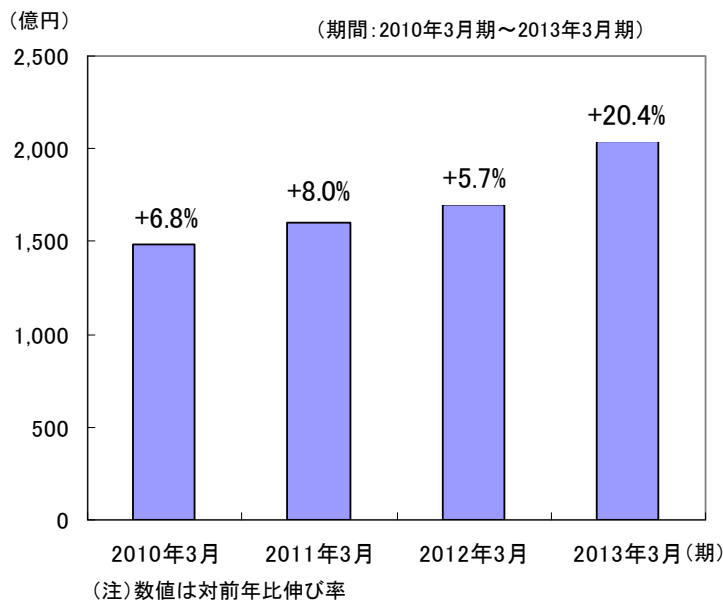
「クボタ」は、農業の自動化が進展しているアジア、特に稲作が中心のタイにおいて、日本の水田で実績を積み重ねた稲作用トラクターなどが高い評価を得ています。右図の通りアジアにおける売上高は堅調な傾向にあります。

「コマツ」は、世界に先駆け機械稼働管理システムを装備した建設車両を販売し、GPSを利用して建機の位置や燃料等の情報を一元的に管理できるようにすることで差別化を図っています。

「アイダエンジニアリング」は品質要求の高い国内完成車メーカーを顧客とするプレス機械メーカーです。日、米、欧、アジアに展開しており、完成車メーカーの海外生産能力の拡大の恩恵を受けることが期待できます。

以上のように、日本の機械メーカーのなかには、品質、サービス、技術等が世界最高水準にあることに加え、円安を背景に競合する欧州企業等に対し、より競争力を高めていくと見込める企業が多く存在すると考えています。

《クボタのアジアにおける売上高推移（除く日本）》



(出所) 決算短信より三菱UFJ投信作成

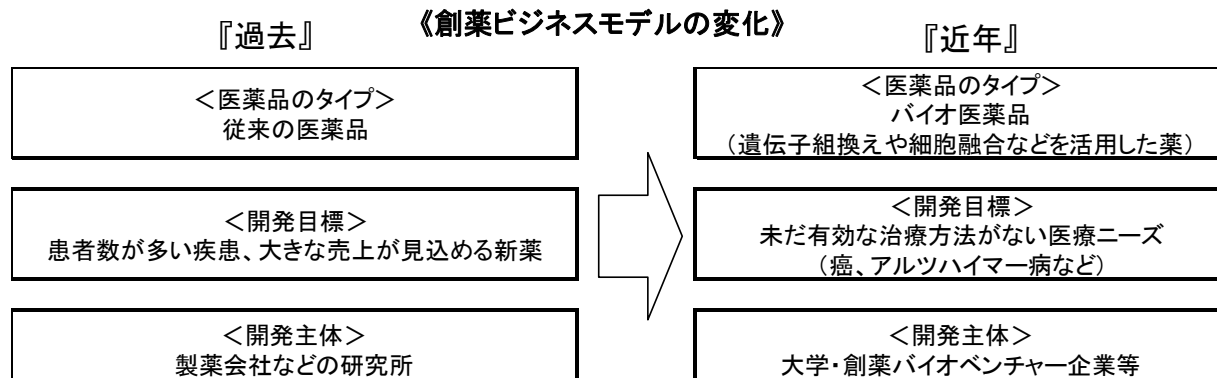
当ファンドが注目する業界 ～ 創薬バイオベンチャー企業

2012年10月に京都大学の山中教授がノーベル賞を受賞することが明らかになった後、バイオ関連企業が脚光を浴びています。安倍政権の成長戦略の第1弾で再生医療・創薬の推進が盛り込まれたことも大きな注目材料となりました。

バイオ業界の中でも、自ら見出した新薬候補物質などで製薬会社と提携し、契約一時金、マイルストーン(開発の進捗に応じた成功報酬)、ロイヤリティ(売上に対して一定料率を乗じた額)などを受け取るビジネスを展開する創薬バイオベンチャー企業に着目しています(そーせいグループ、オンコセラピーサイエンスなど)。

多くの製薬会社は、これまで注力していた生活習慣病などからバイオ医薬品や抗がん剤に関心を移しており、その領域に強い創薬バイオベンチャー企業との提携や買収を積極的に進めています。

そのような状況下、年内に承認見込みのある薬剤を持つ企業や大手製薬企業と既に提携している、あるいは提携の可能性が見込める創薬バイオベンチャー企業に注目しています。



・上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。また、ファンドが実際に投資する銘柄とは異なる場合があります。

- ・上記は過去の実績・状況であり、将来の運用状況・成果等を示唆・保証するものではありません。
- ・本見通し分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動・運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※後記の「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ 日本成長株オープン【愛称:ブルーム】
ファンドの目的・特色
■ファンドの目的

わが国の株式を主要投資対象とし、ボトムアップ・アプローチを基本としたアクティブ運用により、長期的に安定した値上がり益の獲得をめざします。

■ファンドの特色

「ブルーム」の運用手法…足と頭を使って、スマートな成長を実現する方程式を見出すことをめざします。

銘柄選定の主な観点

- ・成長の基盤: 企業の成長のインフラ(基盤)、事業のストラクチャーを見極めます。
- ・スマートな成長: 成長に根拠や計算があるかどうかを見極めます。
- ・成長のファクター: 成長のファクターが明確であるかを見極めます。

<主な投資制限>

- ・株式への投資割合に制限を設けません。
- ・同一銘柄の株式への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ・デリバティブの使用はヘッジ目的に限定します。

<分配方針>

- ・年1回の決算時(4月20日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。
- ・分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。
- ・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

投資リスク
■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

市場リスク
(価格変動リスク)

一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。

信用リスク

組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。

流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

■その他の留意点

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
 - ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- 投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- 収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

■リスクの管理体制

ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部門から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っています。

《ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。》

委託会社(ファンドの運用の指図等) 三菱UFJ投信株式会社
 受託会社(ファンドの財産の保管・管理等) 三菱UFJ信託銀行株式会社
 販売会社(購入・換金の取扱い等) 後記の各照会先でご確認いただけます。

設定・運用…三菱UFJ投信株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
 加入協会 一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会

三菱UFJ 日本成長株オープン【愛称:ブルーム】
手続・手数料等
■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※ファンドの基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
購入代金	販売会社の定める期日までに販売会社指定の方法でお支払いください。
換金単位	1万口単位または1口単位 販売会社の取扱いにより単位が異なります。／販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額－信託財産留保額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受け付けた購入・換金のお申込みを当日のお申込み分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに関し制限を設ける場合があります。 なお、1億口または1億円以上の換金のお申込みについては正午までにお願います。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することがあります。
信託期間	無期限(1999年4月28日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰り上げて償還となる場合があります。
決算日	毎年4月20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に分配を行います。 ※販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上、株式投資信託として取り扱われます。

■ファンドの費用・税金
・ファンドの費用
【お客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

お客さまが直接的に負担する費用	
購入時	
購入時手数料	購入価額 × 2.625% (税抜 2.5%) (上限) 販売会社にご確認ください。
換金時	
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額 × 0.3%
お客さまが信託財産で間接的に負担する費用	
保有期間中	
運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額 × 年1.6275% (税抜 年1.55%)
その他の費用・手数料	売買委託手数料等を信託財産からご負担いただきます。 これらの費用は運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※運用管理費用(信託報酬)は毎日計上され、毎計算期間の6ヵ月終了日および毎決算時または償還時に信託財産から支払われます。

その他の費用・手数料は、その都度信託財産から支払われます。

※購入時手数料、運用管理費用(信託報酬)およびその他の費用・手数料(国内において発生するものに限り)には消費税等相当額が含まれます。

※お客さまにご負担いただく手数料等の合計額は、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

・税金

個人受益者については、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の価額から取得費を控除した利益に対して課税されます。なお、法人の課税は異なります。また、税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

当資料のご利用にあたっての注意事項等

■投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。／販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金に加入していません。／投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。／投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡りする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするために三菱UFJ投信が作成した資料です。／当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。／当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。／当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していません。

■市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

《ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。》

お客さま専用
フリーダイヤル  **0120-151034**
受付時間／9:00～17:00 (土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

<オフィシャルサイト> <http://www.am.mufig.jp/>
<モバイルサイト> <http://k.m-muam.jp/a/1/3>
基準価額・分配金をメール配信(*メール配信対象外ファンドもあります。)



